

令和8年 第11回文教厚生常任委員会会議録

令和8年9月17日 議員控室

○事 件

(1) 所管事務調査

- ① 令和9年度 国民健康保険税率等改正スケジュールについて（住民生活課）

(2) 報告事項についての協議

○出席委員（7名）

委員長 横 田 喜世志 君
赤 井 睦 美 君
寺 田 広 樹 君
倉 地 清 子 君

副委員長 関 口 正 博 君
小 西 雄 一 君
黒 島 竹 満 君

○リモート出席委員（1名）

斎 藤 実 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（3名）

副議長 宮 本 雅 晴 君
議長 大久保 建 一 君

水 野 博 美 君

○出席説明員（4名）

住民生活課長 川 口 拓 也 君
住民生活課長補佐 阿 部 任 敏 君
住民生活課主幹 清 水 満 里 君
国民健康保険係長 田 邊 美 耶 君

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
議事係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（横田喜世志君） 定刻より少し早いようですが、今回、熊石からのリモートをやるということで。

○議長（大久保健一君） 次長、マイク入れて。

○委員長（横田喜世志君） 試験も兼ねて試したいということで、始めたいと思います。

第11回文教厚生常任委員会を始めます。委員長挨拶がありますけど割愛させていただいて、事件に入りたいと思います。

◎ 所管課報告事項

【住民生活課職員入室】

○委員長（横田喜世志君） 令和9年度国民健康保険税等改正スケジュールについて、住民生活課、説明をお願いいたします。

○国民健康保険係長（田邊美耶君） 委員長、国民健康保険係長。

○委員長（横田喜世志君） 係長。

○国民健康保険係長（田邊美耶君） 令和9年度国民健康保険税率等改正スケジュールについてご説明いたします。資料2ページとなります。

まず、改正の経緯についてですが、平成30年度の国保の都道府県単位化以降も保険料率の決定、賦課・徴収は、各市町村で実施していましたが、国保加入者負担の公平化を目指し、北海道においては、令和12年度において、保険料水準の統一が実施されます。

保険料水準統一へ向けた取り組みとして、賦課方式の統一とそれに伴う保険税率改正を令和9年度に実施するものであります。資料中段の表をご覧ください。

国民健康保険税とは、医療分、後期高齢者支援分、介護分、今年度4月から徴収を開始した子ども子育て支援分の4つの保険税を合算したものを国民健康保険税として、被保険者の皆様から納付いただいております。

このうち、八雲町につきましては、医療分が4方式、後期介護分が2方式の賦課方式によって賦課しておりますが、これを全道統一の3方式の賦課に改正します。医療分は、資産割を廃止し、後期介護分は平等割を追加することとなります。なお、子ども子育て支援分は、今年度制度開始時点より、全道統一保険税率設定となっているため、賦課方式についての改正は不要であります。

また、保険料水準統一に伴って、加入者負担公平化のため、保険税減免基準につきましても、北海道標準例に合わせて設定する必要があるため、規定いたします。

次に、保険税率改正に向けたスケジュールであります。9月から11月にかけて、賦課方式変更等による影響額を分析します。改定税率案について、12月開催の国保運営協議会で諮問を行います。1月から2月にかけて改訂税率案について、常任委員会へ報告およびパブリックコメントを募集します。3月第1回定例会にて、条例改正及び新年度予算案を上程します。令和9年4月から、改定税率で運用開始予定としています。

今申しましたスケジュールで国民健康保険税率改正を実施する予定ですので、よろしくお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） はい。説明が終わりました。質問ある方いらっしゃいますか。

○委員（寺田広樹君） 委員長、寺田。

○委員長（横田喜世志君） 寺田委員。

○委員（寺田広樹君） この3方式っていうのはほぼほぼ、これも八雲でも改正の方向で行くってことですよね。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） これは、もうやらなければならない改正なので、八雲町で実施します。

○委員（寺田広樹君） 委員長、寺田。

○委員長（横田喜世志君） 寺田委員。

○委員（寺田広樹君） そうなると、1月2月のパブリックコメントの募集なんですけど、これは何の意図でパブリックコメントを募集するんですか。もう決まっているもののなのに、どういう意図かはちょっと見えないんで、お伺いしていいですか。

○住民生活課主幹（清水満里君） 委員長、住民生活課主幹。

○委員長（横田喜世志君） 主幹。

○住民生活課主幹（清水満里君） この方式の統一、税率改正も含めてなんですが、こちらのほうは、国民健康保険税率自体はあくまでも市町村の条例で決められるものです。

それで、この3方式ですとか、税率の統一というのは、北海道が目指しているということで、必ずしもといいますか、北海道全部これでやろうねっていう意思統一はしてるんですけども、あくまでも決定権は、市町村の条例であるということになりますので、やはり皆様からのご意見を伺って、での条例改正というふうに考えています。

○委員（寺田広樹君） ああ、そうですか。わかりました。いいです。

○委員長（横田喜世志君） そのほか。斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 医療分なんですけれども、3方式にするということで、資産割廃止するんですけれども、これはどっかの部分、例えば、所得割が高くなるとか、そういうようなことになるんでしょうか。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） 実際に今の国保税の賦課水準を決定するには、北海道に納める医療費納付金に合わせて税率設定するんですけど、まずその納付金の額がですね、示されるのが11月以降になります。

それを目掛けて税率改正など各自治体するんですけど、その水準を加味するのとは、当然八雲町の所得状況なりそういった部分もあるので、必ずしも資産割が廃止にすることによって、そのしわ寄せとして所得割が上がるとか、そういった部分にはなりません。あくまで、今後の道から示されるそういった納付金の数値を見ながらですね、設定していくことになります。

○委員（斎藤 實君） 再度お願いします。

○委員長（横田喜世志君） どうぞ。

○委員（斎藤 實君） 均等割と平等割、それは変わらないという現時点では考えておりますか。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） こちらのほうも変更になる可能性はございます。

○委員（斎藤 實君） それともう一点。

○委員長（横田喜世志君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 先ほどパブリックコメントの話もありましたけれども、大事なのは、町民説明会。やっぱり金額的に相対的に変わらないのであれば、それはそれなりに僕らも分かるんですけども、どのように変わっていくのかっていうこともやっぱり町民に知らしめることを必要ではないかな、というふうに思うんですけど、いかがですか。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） パブリックコメント、先ほど清水主幹からの説明もあったんですけど、もう1つは、この八雲町の自治基本条例に則ってですね、実施するという部分もあるんですけど。

まあ、ちょっとこれは、今後の税率設定次第になると思うんですが、これが実際、国民健康保険の加入者なんですけど、全町民の4分の1以下、そういう状況ですし。あと、これが今の水準より低くなると、そういうことになれば自治基本条例上の話でいきますと、町民の負担が増えるわけじゃないんで、これは住民説明会は不要だという取り扱いになるんですよ。

ですので、今後これは、状況を見て町長、副町長とも協議してですね、パブリックコメントの際にすべきか、しないか。それから、するにあたっては、どういう中身で説明するか、それも含めて協議して、その結果も含めて、それは常任委員会のほうに報告させていただきたいと思っています。以上です。

○委員（斎藤 實君） はい、わかりました。以上です。

○委員長（横田喜世志君） そのほか。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） すみません。ちょっと不勉強なもので、ちょっと色々お伺いさせていただきたいんですけども、今後、統一のものになるということでの今改正であると思いますが、これまでこの八雲町の国民健康保険というのは、ちょっと他町村から見れば割高であるというふうに、僕はちょっと認識しているんです。

この資産割というのは、今後廃止になるということで、これまで八雲町。これ、全国の市町村のやつ見てるけれども、資産割というものを導入しているのも八雲町すごい少ないですよ。市町村的には。さらには、所得割そのものも高いんですけど、これってなんでこれまでそのようなかたちで行われてきてたんでしょうか。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） やはりそこはもう単刀直入に八雲町のその医療費が高かったから、それに言わざるを得ないと思います。

それで、その理由は、これは道内全体で面積が広いんで、病院に入院するということで全道は入院の医療費っていうのは高くなるんで、全道的にはそれが高い。

なおかつ八雲町はやはりですね、公立病院が2カ所あるのと、やはりもう1つが旧国立病院、こちらがあって、それが医療費を高めていったと。

なおかつ、国立病院がなくなったとはいえですね、住所地特例と言いまして、やはり国立病院に入院していた患者さんが住所を移ったとしても、そういう八雲町の要は、国保の被保険者になるということなんで、未だにそういった部分は紐付けされているものですから、やはりその医療費の高騰に合わせて、八雲町はどうしても賦課額のほうを上げざるを得ないという口実になってたものですから、そこはもう致し方ないのかなと思っています。

それで、これが、令和12年で標準化、平準化っていうかたちになると、単純に言いますと、今まで医療費が高かった町は自ずと低くなる。逆に負担が少なかった町は、自ずと上がってくると。そういうようなかたちになってくると思うんで、将来的なことを考えると、八雲町は負担が少なくなっていくのかなと思っています。もうすべてが医療費が高かった。これがすべての原因かなと思っています。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 町民負担は、まあ安くなりますよということですよね。この病院っていうのは、国立病院はなくなったとしても、2つの自治体病院を抱えるわけですから、その面において、町民負担は少なくなっても町の負担が大きくなるであるとか、そういうことというのは考えられるのだろうか。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） おそらくですね、先ほど言ったみたいに、今度医療費が平準化されるということは、おそらく各自治体のこの医療費規模にもよると思うんですけど、人口規模、あと、所得の規模とかもあるので、一概に負担が増えたりとか減ったりとかするという部分は、その年によって違うと思うんですけど、おそらくその平準化することによって各自治体の平均を取られてくるんで、今までよりは高くなるということはないのかなとは思ってます。

やっぱり、それに見合った分ですね、一般会計から繰り入れとかもあるわけですから、そういうこともなくなるので、町の負担が増えるということは、これまでよりははないのかなと思います。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） これまでこの所得割率の高さからこの漁業者、とりわけ漁業者ですよ。所得が多い方々の負担というのがこれまで大きかったと思うんですけど、ただ、そう

いうものも不均衡とは言わない。これは当然稼ぎが大きい人からは、多く徴収するということなんでしょうからね。

だから、そういうことも今後は解消されていくっていうんですか。平準化されていくということになるんでしょうか。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） おそらく八雲町の国保だけじゃなく、いろんな国保を見ると、低所得者のほうが割合って高いんですよ。それで、その部分を補うのは、高所得者ということで、特に八雲町の場合、漁師さんとかそういう方が多いんですけど、大体の方は賦課限度額いってるんで、もうそれ以上上がらないような水準になってきて、まあ、そういう方々って常に同じような水準でいくものですから、まあ、負担が増えるっていうことは、多分もう限度がほぼいってるんで、そこらへんはストップがもうかかっているんじゃないかなと。

まあ、そういう方々のおかげで低所得者の方々がなんとか医療を受けられているということにはなって。いや、みんなで助ける保険ですから、まあ、そういったかたちで、これからじゃあ増えるかというその部分も決して今より高くなることはないのかなとは思っています。全道的な医療費が上がらない限り。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） なんでこういうお話をしたかという、八雲町に勤める外国人労働者。この子たちが、まあ、よその町も見てきているもんだから、八雲町の国保税高いというようなことをよく聞いてきたんですよ。これはなんとかなんねえのか。まあ、町で決められていることなんで、これはどうしようもないんだってことで、これまで逃げてきたんだけど。

まあ、そういうことも今後は平準化されていくということなんでしょうから、そういう方々にとってはいいんでしょうけれども、自治体病院を2つ抱えるという状況っていうのはこれからも続いていくんでしょうから、その辺の動向というのは、やっぱりしっかりと町民の皆さんの負担が減るというのはちょっとわかりましたので、今後そういう平準化されても、そういう地域の事情がある以上、町の負担が増えていくのであれば、なんらかのまた対策を取らなきゃならないということにもなるんでしょうから、そこは何かあったら報告のほういただければと思います。

○委員長（横田喜世志君） その他ございますか。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） なければ私のほうから少し。まあ、医療分の資産割、これがなくなるっていうのは、資産を持っても利益を上げれないものを持っている場合は、助かる人があるのか。でも、その分が所得割の率のアップだったり、均等割。この均等割っていうのは、低所得者も払わなきゃいけないんですよ。

それで、今均等割をなくしてほしいとか、子どもに対してのパーセンテージをなくしてほしいという話が出ていると思いますが、例えば、これは、後期支援分と介護分、これ3方式

にする場合、均等割が増えますけれども、均等割が予測される賦課額っていうのは、どの程度を予定していますか。北海道の標準って出てるんですよね。

○国民健康保険係長（田邊美耶君） 委員長、国保係長。

○委員長（横田喜世志君） 係長。

○国民健康保険係長（田邊美耶君） 北海道の標準保険料率というものは示されていますが、今手元に資料がないため、お答えできません。

○委員長（横田喜世志君） その前に戻って、例えば、均等割資産割がなくなった分、均等割に振られるという可能性はあるっていうことですよ。

○住民生活課長（川口拓也君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（横田喜世志君） 課長。

○住民生活課長（川口拓也君） 今の現時点では、それはちょっと私どもでは分かりかねますので、それは分かんないです。

○委員長（横田喜世志君） どうですか、皆さん。北海道水準、今手元にないということですが、きてはいるんですね。

○国民健康保険係長（田邊美耶君） 委員長、国保係長。

○委員長（横田喜世志君） 係長。

○国民健康保険係長（田邊美耶君） 毎年度、納付金に合わせた率としての標準の保険料率は示されておりますが、毎年度、今現在はですね、変わっておりますので、今こちらに届いているもの。ちょっと持ってきてはいないんですけれども、7年度の標準保険料率となりまして、8年度の標準保険料率については、これから納付金の額の改定に合わせて示されるという予定になっています。

○委員長（横田喜世志君） どうですかね、皆さん。

○委員（関口正博君） いや、あくまでも12年度に向けて、これからいろいろ状況等を勘案しながら決めていくということなんですよ。

それで、この運用のスタートというのは、そもそも12年なんだけど、前倒しでなんかそういうようなことをちょっとやっていくということだろうね。

○住民生活課主幹（清水満里君） 委員長、住民生活課主幹。

○委員長（横田喜世志君） 住民生活課主幹。

○住民生活課主幹（清水満里君） 標準保険料率なんですけど、30年度に都道府県単位化されて、その後標準保険料率というのは毎年示されて、それを採用している市町村もございます。それで、八雲町はまだちょっと赤字経営ということで、標準保険料率のほうには合わせられないという状況でした。

先ほど、課長からも説明があったんですが、医療費が高いがゆえに納付金も高いということで保険料率にそれを反映した保険料率で今まで賦課してきました。これは都道府県に単位化された八雲町としてはメリットなんですけど、それが平準化されて、皆さんからいただく保険料というのは、北海道どこに行っても同じ保険料率にしましょうという目標が12年度です。

なので、八雲町はまだ標準保険料率に合わせてないんですが、他の町では、もう標準保険料率になっているところもあるという状況です。

○委員長（横田喜世志君） 私はその保険料率を見たいんですけど、皆さんどうですか。

○委員（関口正博君） 見たい。

○委員（赤井睦美君） 何年度を見たいんですか。

○委員長（横田喜世志君） いやいや、なるべく新しいやつ。今資料請求したら、7年度を見れますよね。

○委員（関口正博君） いや、その先に何を見るの。要は、12年度からは平準化されますよということなんだから。

○委員長（横田喜世志君） だから、今、4方式、2方式ってなっている方式が標準と言われるやつは、これからの3方式を目指した方式になっていると思うんですよ。っていうことは、八雲町が4方式、2方式になっている部分で、例えばだよ。さっき言ったように、均等割がどの程度北海道で示されているのかとかいうのが今までは一切示されたことがない。八雲町の国保に対して。

それで、今年の春もちらっと言ったのは、八雲町から2億4千万円ほど借入していて、それで利益が上がりましたよと。利益ったら変な言い方ですが、余剰金が発生しました。そのときに余剰金をなぜ保険料に還元させないんだっていう質問をしたと思うんですが、それは、次の改正があるからという、それを見て考えるという話だったので、そういう改正に合わせて考えるって言うのであれば。

例えば、今年7年の北海道標準と言われるものが基本になって八雲町の保険料を決めているわけだから、そこから今半年とか8カ月とか経って、来年のまた新しいのが示されるでしょうけれども。

今、八雲町の保険の成り立ちというのは、この7年度の示されたのが基本になっているっていうところから推計できますよね。これから八雲町の保険料率がどの程度になるか、推計ができる。よろしいですか。

改善に向けたスケジュール通り行くと、最終的にさっきの寺田委員からも質問があったように、なぜパブリックコメントするんだっていうところにつながっているんです。

○委員（寺田広樹君） 推計ってアバウトな数値でいいんですか。

○委員長（横田喜世志君） そりゃそうよ。だって、毎年変わるんだもん。12年に向けて毎年変えてく。だから、今現在、市町村で保険料が違うんだから。

○委員（関口正博君） まあ、それはわかるよ。市町村で今は決めれるわけだから。それで、地域の事情で。

○委員（黒島竹満君） 基準を見たいだけなんだべ。

○委員長（横田喜世志君） 俺はね。

○委員（黒島竹満君） だべさ。じゃあ、そうやって言えばいいしょ。俺はそう思ってる。今まで道から来ているのであれば、道の基準を見たいというのであれば、来てるんだから出してもらえばいいだけだよ。そういう話でしょ。

○委員長（横田喜世志君） いやいや、この委員会、みんなで共有するかしらないかを今聞いてるんですよ。どうですかって。

○委員（黒島竹満君） 俺はなんもいいよ。道の基準が来てるのであれば、見てもいいんじゃないの。確かに社会保険と、今の国民保険っていうのはね、社会保険のほうが安いんだ。逆に。

低所得者はね、社会保険のほうが安いんだって。だから、社会保険加入してくれ、加入してくれってくるのよ。うちのほう。そこの違いっていうのはね、だいたい2千円か3千円違う。だから、そういうやっぱり社会保険と今の国保と合わすと、やっぱり国保のほうが高いんだ。

○委員（赤井睦美君） 知らなかった。

○委員（関口正博君） 例えば、この市町村の俺見ているのは、この市町村。

今、自分見ているのは、この市町村別保険料率一覧だとかっていうのはあるんだけど、こんなのは調べればわかるんだよ。

それで、例えばそういうものは資料を見ながら、例えば平均値だって見ることができるし、八雲がどういう状況かというのも全然こんなのは普通に。これどこだっけ、北海道のホームページとかで見れるのかな。

だから、その制度を八雲町が当然そんなおかしいことをしているわけではなくて、当然いろいろなことを見越しながらやって、町からお借りするけれども返せる分返せない分っていうのがやっぱりあって、当然制度はつなげていかなきゃならないんだから、そこに別に俺は必要性を感じない。

○委員（寺田広樹君） 俺も感じないな。調べれば分かるんで。アバウトでいいのであれば、調べればわかるんで。と思いますけどね。

○委員（関口正博君） ただ、これまでちょっと積極的に調べてこないばちょっと申し訳ないな。住民生活課って、ごめんなさいね。急にこんなふうに質問出すには申し訳ないと思ってるんだけど。

それはだけど、委員長あれだよ。もし必要であれば、個人でやっていただきたいなと思いますけど。僕は別にそこにまったく何もないの。

○委員長（横田喜世志君） はい、わかりました。では、委員会としては資料を請求しないということで。

それでは、ほかに質問があれば。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） なければ住民生活課、お疲れでございました。

○委員（赤井睦美君） 斎藤さんはないのかな。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 斎藤委員、よろしいですか。

○委員（斎藤 實君） はい、ご苦労さんです。

【住民生活課職員退室】

○委員（関口正博君） 職員がさ、会社負担だからね。

○委員（黒島竹満君） だから、安いんだよ。

○委員（関口正博君） だから、安く感じる。

○委員（黒島竹満君） だから、会社に負担かかるんだ。

○委員（倉地清子君） だって、半額になってるからね。

○議長（大久保健一君） パートでもかけてけれってくるから。

○委員（関口正博君） 社会保険は、今みんなやっぱりかけるから。

○委員（寺田広樹君） 社会保険の入ってけれっていう、なんか商売しているあれもあるんですよ。

○委員（黒島竹満君） それは義務だから。会社としての。

○委員（寺田広樹君） 国保入るなら、うちの会社でそういう社会保険を入れさせることできるよって。それで、それが問題になってるみたいなんですよ。

○委員（倉地清子君） そうだね。

○委員（寺田広樹君） なんで問題になってるの。

○委員（寺田広樹君） だから、それだけ国保高いんですよ、健康保険。

○委員（赤井睦美君） 個人が払う分としては高いということでしょう。でも、半分は会社が払っていれば。

○委員（寺田広樹君） まあ、合算すれば当然あれですけど。

○委員（黒島竹満君） いや、個人の分は、社会保険料でも個人の分は個人の分だから。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員（黒島竹満君） だから、同じあれできんだわ。それこそ今の国保と合わせれば、やっぱりそれでも個人として払う分がちょっと高い。

○委員（赤井睦美君） そうそう。それならわかった。

○委員（黒島竹満君） そうなんだ。

○委員（倉地清子君） そうだね。

○委員（関口正博君） そしたらね、雑談にしますか。ちょっとこの国保とかって言うのをさ、これまで横田さんとか佐藤智子さんとか一生懸命質問してくれてたから。あと、斎藤さんなんかもそうだけどね。

この制度が標準化される。皆さん知ってた、八雲が高いっていうの。

○委員（寺田広樹君） いや、わからなかったです。

○委員（赤井睦美君） 一回なんか関口さん、前もそういうのを教えてくれてたから。

○委員（関口正博君） 漁師のほうからたけえって。まあ、彼らは限度額当然なってるんだけど。要は、ポジションとか多い人が支えるという。それはこれ、社会保障においてはさ、当たり前のことだからいいんだけど、外人のほうはやっぱりね。他の町から来た子たちが八雲なんでこんなに高いんだっていう。

でも、まあまあ、考えてみればそうだね。今の説明聞いて思ったけど、もともとは病院3つもあった町なんだから、自ずとそういうものが高い。それで、市町村としても、これは苦肉の策なんだろうけど、いろんな方式使ってさし障りなくってそうなんだけど、そういうので徴収を多少なりとも多く取ってたっていうことだったんだなっていうことなんだよね。

まあ、それが今度は平準化になるんだから、町民負担は減るんだけど、ただ、町として、町民負担は減ったところで、当然国保だって運用していかなきゃなんないんだから、こう自治体病院が2つあるところは、別の名目でなんかお金取られたりだとか。

○委員（倉地清子君）　そうですよね。

○委員（関口正博君）　そんなことに可能性があるのかなっていう。

○委員（倉地清子君）　それは思います。

○委員（関口正博君）　ですよね。

○委員（斎藤　實君）　委員長、いいですか。

○委員長（横田喜世志君）　はい。

○委員（斎藤　實君）　まあ、保険税の関係ですけれども、病院があるから高いとか安いとかいう議論にはこの税の部分はないんじゃないですか。

　病院になくても、応分の負担はやはり少くないわけですから。よその町に行って病院にかかっている人がたくさんいるわけだから。病院が２つあるから、１つあるから保険税が高くなるということにはならないんでないかなというふうに、私は思っているんですよね。

○委員（関口正博君）　なるほど。

○委員（斎藤　實君）　ですから、社会保険がやっぱり多少安くなるっていうことは、やっぱりそういうところにもあるんじゃないかなというふうに。全部でもって負担しているからという。　病院は関係ないんでないかな。

○委員（関口正博君）　だとしたら、俺ちょっと制度がわからないからなんだけど、ちょっと教えてほしいんですけど、要は八雲町民の病院にかかる率っていうのがよその町村よりも高いという可能性はあるんですか。

○委員（赤井睦美君）　そういうふうになるよね。

○委員長（横田喜世志君）　前はあった、国立があったときは。

○委員（倉地清子君）　入院が増えてるよね。長期入院が増えていきますよね。

○委員（関口正博君）　長期入院が。要は、だから。

○委員（斎藤　實君）　その辺は分析してみないと。

○委員（関口正博君）　そうですよね。

○委員（斎藤　實君）　うん。まだまだ勉強する必要があるので、我々も。

○委員（関口正博君）　昔、僕新人の頃言われたのは、要は病院にかからないようにすることが町にとって一番なんだみたいな。要は、町民が健康であること。

　ただ、八雲町はこうやって病院を抱えてて、病院にかかる人いなかったら、これもまた病院大変だよなって。そういう矛盾するようなところがあるんだよね。

　ただ、これっていうのはからくりとしてどうなってるのかっていうのは、ちょっとやっぱり分析してみないと何とも言えない。要は予防というものに積極的にこれから八雲町が取り組むことによって、そういう社会保障の負担が減っていくのか、とかっていうのは、これはちょっとと見てみなきゃわからないということだよ。そしたらね。ただ、一生懸命さ、例えばがん検診にしたって何にしたって受けてちょうだいと。

○委員（赤井睦美君）　そうそう。

○委員（関口正博君）　やっぱりそういう取り組みを続けていくことによって、将来的に八雲町の社会保障の負担が減るんですよっていうことは、ちゃんと言えるようなデータ分析はやっぱり必要なんだよね、やっぱりね。

○議長（大久保建一君） いや、でも、予防医療が大事だというのは、国としてもはっきり言ってるわけだから。

○委員（関口正博君） いや、国が言うじゃなくて、八雲の事情でこれまでも。

○議長（大久保建一君） いや、八雲でも同じだって、それは。

○委員（関口正博君） いや、だけど、八雲町の状況がどうだということを調べるべきじゃないの、だけど。

○委員（赤井睦美君） 私たちはね。

○委員（倉地清子君） まあ、でも、一般的にあれですよ。やっぱり診療が増えれば、税金が上がる仕組みだから。

だから、予防をすることを推奨はやっぱり八雲町もしてますよね。それで、結局ぶっちゃけ漁師さんが受診はあまりそういう健康増進には、消極的であるというのはデータではあるんですけど、その意識に向けていくことは必要だとは思いますが。

○委員（関口正博君） いや、俺はどうしても病院中心で見ちゃうから、医業収益を上げなきゃならないよ。でも、町民が健康になればなるほど、病院なんてかかる人いなくなるんだから。これどうなのよっていうところがやっぱりちょっとね。

○委員（赤井睦美君） 病院縮小できていいんじゃないか。

○委員（倉地清子君） 予防中心の病院。

○議長（大久保建一君） だけど、町病はさ、よく予防医療のほうに、例えばドックだとか、そういうのには、ものすごく消極的なわけだね。

○委員（関口正博君） いや、でも一時さ、ワンコインドックとかって 500 円でやってたりとかっていう時期があったんだよね。ちゃんと時代、時代でね。多分その広がりはあるような気がしてるけど。

でも、今病院の特別委員会だって持ってるわけだから、その辺の考え方っていうのは、町として統一しねえと。国保のために、町民負担減らすために、予防というものをまず看板として掲げる。

まあ、国は考えているのは分かるんだけど、八雲町としてもちゃんとそこに取り組んでいくのかというところの方針には大きく関わる。

○議長（大久保建一君） 国保はもう平準化されるんでしょ。そっちの方向に黙ってても向いていくんだから。だから、それはあんまり組み合わせなくてもいいと思うよ。病院は病院って考えていいと思う。

○委員（関口正博君） いやだけどさ、こういう制度ってね、さっきも言ったけど、病院は関係ないって言ったけど、この町にはずいぶんかかっているよって平準化された方がいいけれども、これ公平性ってそういうことだから。公平性を図るってことは、いっぱいお金がかかっている地域にはそれだけ賦課しますよということにも繋がっていくんだから、それは公平性の原則だから。国保税だろうが何だろうが

今は平準化されて、要は、町民負担は減っても自治体負担っていうのは、今後増える可能性っていうのはないわけでは俺ないと思う。

○議長（大久保建一君） いや、当然そうだと思う。

○委員（関口正博君） うんうん。それが公平性の俺原則だと思う。今、公平性の原則で国保は全道標準になりますよ。だから、俺のところもなんもそういうところ、予防一生懸命やってるし、町民病院にかかっていないのに、なんでこったらにとんなきやなんねえのよって町も当然出てくるわけだよ。平準化の怖いとこって、そういうとこだよね。

だとしたら、八雲ってこれから不利になる可能性はないわけではない。ちょっと理屈っぽいことになってるけど。っていうことになんない。

○委員（倉地清子君） はい。そうです。健康の予防をして自分を知っておくっていうメンテナンスですよ。それをしないと大丈夫だって思っても、急に脳にきちゃったとか、そういう疾病が急に来るわけで、そうすると、医療費が長期にわたってしていくっていう、その理屈がわかるような健康増進のことを進めていくっていうのにすれば、その流れ。

医療費がこれだけかかるのは、こういう予防も大切だよっていうようなことが分かるような研究をして、理解を深めていくような進め方は大事だと思います。そういうことですか。

○委員（関口正博君） いや、面倒だよな。だから、やる気になればね、本当面倒になってくる。それで、俺たちも病院だけ見ていいのかっていうことだよ。あくまでも、町政運営のために病院の経営を見るわけであって。

でも、そのためには国保を含めた全体を見なきゃならない。まあ、これは議員だからしょうがないんだけど。ちょっと俺もくどくなってしまったからここでやめるけど、考えればキリないから。

でも、そういういろんな可能性ってやっぱり考えながら俺たちっていうのは制度を見ていかなきゃならない。今、高々平準化。町民負担減りますよっていうことだけで終わらせていいのかっていったら、僕はそうはちょっと思わないもんだから。問題提起として受け取ってもらえればいいかなと思います。

○委員（赤井睦美君） 加入者が4分の1以下って、そこにすごい私は驚いているんだけど、退職された方って国保に入らずに何に入ってるんだろう。

○委員（関口正博君） 国保に入るんじゃない。

○委員（倉地清子君） 国保に入ってます。

○委員（赤井睦美君） それでいくと、もっと多いと思いました。高齢率っていうか、それからいくと1/4の加入者であつたら少なすぎるんじゃない。なんで加入者1/4が道の。

○委員（倉地清子君） 対象の人が。

○委員（黒島竹満君） そうなと思う。社会保険だとかも増えてくるから、そういうふうになってくるんじゃない。

○委員（赤井睦美君） じゃあ国保は1/4。

○委員長（横田喜世志君） 後期高齢者とか。

○議長（大久保建一君） あれ、国保って後期高齢と別でしょ。

○委員（倉地清子君） 75歳以上だ。

○議長（大久保建一君） だから、60で退職して70までの間の資格って退職者はね。対象者ではないと。

○委員（関口正博君） あれ、後期高齢って75でないの。

○議長（大久保建一君） 75か。

○委員（寺田広樹君）　そうです。

○委員（関口正博君）　70 から 75 までの間しか加入しないと。

○議長（大久保健一君）　退職者はね。

○委員（赤井睦美君）　うん。だから、1 / 4 ってやっぱり少ないんだね。

○委員（倉地清子君）　国保少ない。

○委員長（横田喜世志君）　でも、その 1 / 4 は一次産業者だからさ。

○委員（赤井睦美君）　一次産業者なのね。

○委員（倉地清子君）　ちなみに私国保ですけど。

○委員（黒島竹満君）　社会保険も上がるんだって。こっちが改正になるから、逆に上がってくるんだよ。社会保険上がってくるんだ。

○委員長（横田喜世志君）　全部上がるっていうのは、国からの分が下げられるからさ。それで、国保にしろ、年金にしろ、何にしろ、全部国が見ていた分がどんどん率下げられて上がっているのは確かなんだわ。そうすると、加入者から取らざるを得ないんで。

○委員（関口正博君）　まあ、会社やってる人もみんなそうだけど、子ども子育て分って春からもっと入ってきてね。

○委員（赤井睦美君）　そうそう。

○委員（関口正博君）　高々何百円ではあるんだけどさ。いや、これ取るのはいいけど、ちゃんとこういうのを活かしてくれよってね。

○委員（赤井睦美君）　どこに使われてるかかわかんない。

○委員長（横田喜世志君）　この委員会だって、子ども子育てやってさ、こっちもやってって。

ただ、この金が本当に使われているかどうかってわからないしょ。こども家庭庁なんて作られてさ、勝手に税金から使われてどこに効果があるのっていう話になってんだから。

○委員（関口正博君）　まあ、国のこと言ったってきりないからあれだけど。

○委員（寺田広樹君）　この医療分の 4 方式から 3 方式になりますよね。資産割廃止になって。これでちょっと調べたら、この 4 から 3 方式するにあたって高くなる可能性がある方々がいるって言って。

○委員（関口正博君）　ああ、本当。

○委員（寺田広樹君）　それはまず、高所得者、配偶者がいない独身、あと資産がない。固定資産税がかかるような資産を持っていない人、この 3 つの条件の人がもしかしたら上がるかもしれないということですよね。

となると、さっき言った落部の外国人もひょっとしたら今より上がる可能性もなくはないと思う。

○委員（関口正博君）　資産ないからな。

○委員（寺田広樹君）　と思って俺は聞いてた、調べてたんですよ。

○委員（関口正博君）　なるほどね。

○委員（赤井睦美君）　それはかわいそう。

○委員（寺田広樹君）　可能性としては、そういう方が条件にあてはまる人が上がるかもって。

○委員（関口正博君） この資産割を適用している自治体って本当少ないんだけど、それが今の国民健康保険にどの程度影響しているものなのかね。

八雲は資産割 40%。この 40%というのは、どういう意味合いなのかというと、わかんないんだよ。

○委員（倉地清子君） たしか、そうですね。

○委員（関口正博君） でも本当に少ないの。資産割を導入してるのってね、本当に 1 割とか 2 割とかそのくらいかな。全道の自治体で。

それで、この近辺にだったら厚沢部が導入しています。厚沢部、島牧、蘭越、岩内、檜山のほうが多い。

○議長（大久保建一君） 多分、金持ちの地域だと思うよ。

○委員（関口正博君） 八雲、金持ちの地域なの。

○議長（大久保建一君） お年寄りが資産を持ってるってことだよ。

○委員（関口正博君） あ、なるほど。

○委員（寺田広樹君） いや、なんかね、二重課税に今現在なっているようなことも出てました。要は、固定資産税を払っている方とこの保険料の中に固定資産税あるかなしで、なんか計算式になんかあるみたいなんです。それ、二重課税じゃないかっていうのがありましたね。それを払拭するのに、ちょっと忘れちゃったけど。

○議長（大久保建一君） でも、二重課税なんていっぱいあるよ。

○委員（寺田広樹君） そうですか。

○議長（大久保建一君） ガソリン税だってそうだ。

○委員（寺田広樹君） まあ、そうですね。そういうのもなんかあんのかな。払拭するのにもあるのかなとは思ってましたけど。

○委員（倉地清子君） 廃止だからね。

○委員（関口正博君） まあ、廃止になるからね。でも、これ見るとね、本当これはおかしいと思うよ。なんか金持ちっていうわけで、泊村のともかかっているけど、島牧、黒松内、蘭越でしょ。岩内、泊、神恵内、積丹、古平。古平なんて 100%以上の資産割。赤井川村もそう。

だから、何かのわけがあって、資産があるなしにかかわらず、何かの理由があってこれはきっと掛けられてるのかな。まあ、これから廃止になるものだから、深く掘り下げてどうしようもないんだろうけど。

○委員（倉地清子君） 可能性としては負担が重くなる人もいるかもしれない。

○委員（寺田広樹君） かもしれないとは、出てきました。

○委員長（横田喜世志君） だって、八雲の資産割 40%で収めている人の分がどこに振り分けられるかって話だからね。そうすると、所得割か均等割しかない。あ、平等割か。

○委員（関口正博君） 平等割ね。

○委員（倉地清子君） 平等割追加だからね。

○委員長（横田喜世志君） 例えば、自分のことで言えば、ほとんど限度額。

○委員（寺田広樹君） 限度額だからな。限度額だから上がることねえのかな。漁師さん。

○委員（関口正博君） 平等割でいったら八雲は安いよ。現状。

○委員長（横田喜世志君） そしたら、これが3方式になって、なおかつ40%の負担の分上がる可能性があるってことね。

だから、例えば他の町村で資産割やってないところで、例えば、所得割がパーセンテージ高くなったり、平等割が高くなったりっていう手段しかない。

○委員（関口正博君） まあまあ、そこは合わせていくっていうね。平等割は安いけど、均等割は八雲が高いです。51,000円。他の町村から見ても高いですね。

まあ、この件はまたどこかで。健康保険の制度については、不勉強だから。

○委員長（横田喜世志君） 今年度中にあれだっけさ。スケジュールからいったらさ、来年4月から3方式っていうやつをやろうとしてるから。まあ、ここに向けての資産割をなくした分がどこらへんに影響していくかっていう。

○委員（関口正博君） まあ、平準化って、現状の目標は平準化なんだから。まあ、ただちょっとわかんないな。現状見ないば。

○委員長（横田喜世志君） まま、そういうことなんですけど、色々。

○委員（寺田広樹君） パブリックコメントもちょっとな。今度こういうふうになるって町民知らないじゃないですか。それで、なんでどうやって、何をコメントを取ろうと思ってるのかわかんないです。まあ、説明していましたが。

○委員（倉地清子君） どちらかというと、やったっていう。

○委員長（横田喜世志君） こうしますよっていう。

○委員（寺田広樹君） 0件になる可能性がありますよ。

○委員（倉地清子君） いや、大体0だよ。

○委員（赤井睦美君） 大体が0。

○委員長（横田喜世志君） 知らせましたよっていう。

○委員（寺田広樹君） まあ、建て前は必要なんだろうけど。いや、わかりますよ、それは。それはわかります。

○委員（倉地清子君） 条例にはあるからさ。町民の声を聞くものは、パブリックコメントだから。

○委員（関口正博君） それが何より大事なのよ。

○委員（寺田広樹君） 0件の完成。

○委員（関口正博君） でも、それが何より大事。

○委員（寺田広樹君） あ、そうなんですか。

○委員（倉地清子君） 今まであって1件くらいじゃないかな、たぶん。

○委員（寺田広樹君） ああ、そうですか。

○委員（倉地清子君） うん。

○委員（寺田広樹君） なんかもう、仕組みとか変えたほうがいいような気が。

○委員（関口正博君） 行政にとってみればそれが大事。お知らせしましたよと。

○委員（寺田広樹君） ね。それだけなんですよ。言え、それだけ。

○委員（関口正博君） 何よりそれが大事なの。

○委員長（横田喜世志君） 文句言わせないために。

○委員（寺田広樹君） そうですか。

○委員（関口正博君） パブリックコメントでね、何も意見出なかったっしょって。

○委員（寺田広樹君） ね。言えますもんね。そうやって。

○委員（関口正博君） それは制度でそういう。

○委員（寺田広樹君） いや、分かるんです。それは分かるんですよ。意味ないことやって
もなと思って。

○委員（倉地清子君） やってみて。パブリックコメントの申請を。結構大変らしい。

○委員（寺田広樹君） え、しかも大変なんですか、手続き。

○委員（倉地清子君） なんかもめんどくさかったって聞くよ。

○委員（赤井睦美君） ちゃんと住所と氏名書いて、連絡先も書いて、あと、意見書いて出
せばいいみたい。匿名はなし。

○委員（寺田広樹君） そうですか。匿名なしなんだ。

○委員（倉地清子君） 名前出ちゃうね。

○委員（寺田広樹君） そうなんだ。

○委員（倉地清子君） 結構な欄だから。

○委員長（横田喜世志君） ということで、（２）の報告事項についての協議は、だいぶ尽
くされたような雰囲気が出ておりますでの、よろしいですかね。

じゃあ４番目、その他。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 今日すぐすぐではないんですけども、補聴器の請願書ができてい
て、ちょうどこの間、NHK でその補聴器の必要性っていうのをやってたんですけど、目は見
たものが見える見えないで脳じゃなくて、目のところで判断するけど。

聞くのは、脳に達して聞こえないと脳に刺激がなくて、そうすると、聞こう聞こうと脳が
頑張るから、その分他の脳の力が衰えてくるんですって、記憶力だとか、思考力だとか。そ
ういうので認知症になるっていうのは実証されていて、だから、高齢者には補聴器が必要
なんだっていう、その脳を刺激してきちっと脳の働きを示すということのためにも必要だ
ということが言われているのが一点と、それから聴覚検査をしても難聴って判断されない耳
の聞こえの悪い人っていうのがいて、それはもう 20 代、30 代でもいてね。音は聞こえる
んだけど、何を話しているか分からないっていう、そういう耳の病気があるらしく、その人
はやっぱり補聴器をつけることで、すごく周りが何を話しているか分かるから仕事もしやす
くなったっていう例も出ていて。

そうすると、やっぱり補聴器。いろいろ難聴が進むと補聴器も変えていかなきゃいけない
っていうのを私は思ってたんですけども、そうじゃなくて補聴器専門のお医者さんってい
う人がいて、その人に合ったものを作ると、その都度その都度調整してもらえから、そん
なに何回も変える必要ないらしいんですよ。

それで、八雲町は、例えば助成 2 万円として、300 人対象にしたら約 600 万円、そのぐら
いで、認知症にならずに済むとか、若い人たちが仕事しやすくなるっていうのであれば、補
聴器って大事なんだなということが改めてわかりました。

それと、集音器のスマホの。補聴器というのは、あくまでも医療機器なんですってちゃんと脳のことも考えて作られて。集音器っていうのは聞きやすくするための機器だから、薬とサプリメントの違いみたいらしく。だから、集音器で済む人はそれはそれですごいいんだけど、本当に脳のことを考えたらやっぱり医療機器を使ったほうがいいっていうのは、そのお医者さん何人か出てて言っていましたので、今ここでだったら補助しようとかってそういう結論が出ないんだけど、ぜひもう一度皆さん考えていただいて、その補助する金額も別にね、1万円でもいいと思うんだけど、どれぐらいが八雲町の財政から考えて適当なのか、もう一度検討していただければ助かります。以上です。

○議長（大久保建一君） 次回、請願に出た他町村の状況あるしょ。あれ、みんなに配って議論すればいいんじゃないの。

○委員（赤井睦美君） あれ。

○委員（寺田広樹君） もらってますね。

○議長（大久保建一君） そしたら、それ持ってきた上で。

○委員（赤井睦美君） はい。よろしくお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） はい、その他ありますか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） これは文厚の所轄かどうかちょっと。教育委員会は文厚だよな。

（「はい」という声あり）

○委員（関口正博君） 今回の小西君の一般質問の中で、開墾 150 周年に向けた取り組みの部分で町長答弁が教育委員会に、そこのほうは調べてさせてますっていうことだったんですね。

開墾 150 周年は、もう来年、再来年なんですよ。それで、皆さんの記憶に新しいのは、木彫り熊 100 周年。これはどういう状況であったかということは、ちょっと議会としても何も反省はしていない。ちょっと決算委員会の中で、町長が憤慨したところをああだ、こうだっていう議論がちょっとありましたけど。あれの何が問題点だったかという、イベントの統一性。

これは僕も昔から言ってるけど、八雲っていうのは、イベントの統一感がないと。そもそも予算が分断されていると。今回の木彫り熊も商工労政の予算と木彫り熊本体は社会教育予算。それで何が起きたかっていうと、教育委員会は当然木彫り熊のことを一生懸命やるわけですよ。

それで、商工労政っていうのは、その他のいろいろなイベントの取りまとめ的なことをやってたのかな。よくわかんないけど。結果、何が起きたかという、全く統一性のない、せっかく 800 万なり 900 万の総予算がついているにも関わらず予算が分断され、木彫り熊のイベントとしては良かったのかもしれないけれども、もっとその費用対効果ってことを考えた時にはじゃあどうだろうってことは、ちょっと我々も考えなきゃならないところなのかな。まして、前町長が憤慨していた。要は、あの人は自分がテレビに映らなかったから。でも、あんなのは当たり前の話で。

だって、社会教育課はさ、木彫り熊のことをやってくれって言ってて、予算預けられてさ。それで、俺がテレビに映らないので怒るっていう。そもそもあんたが予算分断させて、怒る何ものもないよってちょっと僕は思ったんだけど。

それで、こういうイベントのあり方っていうものが、じゃあ町にとっていいかと言ったら、俺は決してやっぱり良くないと思っていて、今回の開墾 150 周年というのは、ちょっといまいち盛り上がり、もう来年再来年なんだけど、これはしっかりとやっぱり行政に任せてもそういうかたちになるわけですよ。これが悪いところだなと思うの、八雲の。

やっぱりしかるべきところは、ちゃんとイベントのイニシアティブを取って、行政っていうのはある程度保管するっていうところで動くべきであろうと、俺は思ってるんだよね。イベントはね。当然そこで動く人たちっていうのも当然イベント自体を運営を補助する人もいて、やっぱりこれってちゃんとピラミッドになっていなきゃならなくて。要は、親方がいっぱいいろんなものに、いくら金を使ってもいいものになるわけでもなくて。

それで、この開墾 150 周年記念イベントっていうものを皆さんはどう捉えているかということをやっとお伺いしたいなと思ったんです。自分は、すごく大事なものだなというふうに捉えています。

それで、これまで議長なんかは対応しているだろうけど、この名古屋市の要人の皆様の対応等を考えても 150 周年だよなって言ってるんだろうけど、じゃあ八雲町ってどういう準備の仕方をしてるのかなっていうのは、小西君の質問の中でも教育委員会のちゃんと信用できる人間でやってますからみたいな答弁してたけど、おいおい本当にそれ、なんか進んでるんですか、みたいなとこってちょっとあつて。これを昨日僕も町民の方からちょっとご指摘を受けて、木彫り熊の時のようなことにはしないでくれと。

それで、これは八雲にとってもチャンスだろうし、商工的にもこういうものチャンスだろうし、ということをやっと言われて、本当そのとおりだし、ちょっとそこについて、皆さんどう思ってるかの意見を聞きたかったです。

開墾 150 年です。これ、申し訳ないけれども、当然熊石は違うし、言ってみれば落部だって違うわけですよ。もっと八雲の人たちが中心になって俺考えるべきだなって思うんですよ。俺はそんなこと言ってられないから、やっぱり八雲のためって思えば、これは言っていないとなんないし。というところなんです。

なんか、そういうちゃんと盛り上がるように持っていくっていうのは、やっぱり人なんだから、人だからなっていうふうに思うんだけど。どうなんでしょうかね、議会として。どうなんだろうかなと思って、皆さんどう思うかなと思って。

○委員（寺田広樹君） それは盛大にやりたいですね。

○委員（赤井睦美君） 盛大に。

○委員（寺田広樹君） やりたいですね。

○委員（倉地清子君） 開町 20 周年でしたっけ。前あったの。

○委員（寺田広樹君） 合併ね。

○委員（倉地清子君） あ、合併だ。

○委員（寺田広樹君） 去年ですね。

○委員（倉地清子君） これマイク使ったほうがいいんですかね。

○委員（関口正博君）　そうですね。斎藤さん聞いてるから。

○委員（倉地清子君）　も実はそのイベントとしては、あんまりよろしくない結果だったような話ぶりはいっぱい聞いていて。そのイベントは、それこそ開墾 150 っていうのは、すごく大きいことだから、どのようにそれが決められていくのかというのも正直知らない中で 20 周年を迎えて出席させてもらって。

なので、まずは取り掛かり方、考え方っていうのが、なんていうんだろう。統一されてないから、意識がここでもしね、それは言うとするれば、今寺田君が言ったように、盛大にやってもらいたいっていうことにしか、なんかもう言葉を持っていけないなって今ちょっとイメージで思ったんですけど。どのように提言していったらいいのかな。

○委員（関口正博君）　でも盛大にやるためにはさ、もう再来年度なんだから、来年度予算に何かしら反映させるだとかということになれば、やっぱり早め早めに動いていかなきゃなんないんだよね、こういうのってさ。行政はさ。だから、そんなにのんびりしたお話でもないんだよね。

○委員（寺田広樹君）　だから、もう町中にフラッグだとか。例えばですよ。150 周年、再来年でしたっけ。フラッグでものぼりでも、もう今から今年からでもやっておいてもおかしくないんですよ。本当はですよ。

○委員（倉地清子君）　たしかに。

○委員（寺田広樹君）　いきなり今年 150 周年だって言われたって。準備っていうものがあるんでね、やっぱり町民たちも。

○委員（関口正博君）　準備の前に、まず段取りなんだけど。

○委員（寺田広樹君）　段取りもあるし。

○委員（関口正博君）　それで、これを行政がすべて担っていくと、これね、別に職員が悪いとかではないんだ。ただ、なんて言ったらいいんだろうか。自由な発想でなんてそんなやれるわけないから、その予算がふんだんにあるわけじゃないから、こんなものは。

ただ、こういうのっていうのは、やっぱり例えば実行委員会なりなんなりがしっかりやって、やっぱりそこがちゃんと。それで、行政はそこを補完するっていうかたちがベストで、お金でもなくてね。そういうかたちをとっていったほうがいいのになっていうふうには、俺は思うんだけど。

でも、そのためにはもう動き出していかなきゃならないわけで。ただ、この開墾 150 年に八雲にとって大事なことだとは思ってても、どのくらいの価値があるのかっていうのは、ちょっと俺もなんとも言えないとはあるから、ここはちゃんと盛り上がっていくように持っていくのであれば、議会からも問題提起するべきかなっていう。

○委員（倉地清子君）　それは、はい。そうですね。

○委員（赤井睦美君）　まず、私の希望は、自分は尾張藩でもなんでもないから、やっぱり勉強しなきゃダメだなと思うんですよ。例えば、ほら、北海道に開拓はいっぱいいろんな北海道全部開拓されているから、それぞれの地域に開拓者っているわけでしょう。

でも、八雲町の場合は、尾張藩の人がちゃんと開拓する人のための住宅まで建ててから始めたというのはすごく珍しい例で、その住宅が今でも資料館にちゃんと展示されていたり、

それからその人たちは、本当に一旗あげないと地元には帰らないって決めてやってきたけど、結局そんな一旗なんてこんなね、北海道でそんな簡単に上がるわけないし。

だから、みんな帰れなかったんだけど、お墓だけはちゃんと名古屋のほう向いて建てたとかね。そういう話は、私本当にちゃんと取っておかなきゃダメだなんて。そういう人がいて、初めてこの八雲町がこんな風になったってね。

だから、木彫りのときも思ったけど、後々こう見て、ああ、そうかって思うものを作ったほうがいいと思うのね。同じ番組でもなんでもね。だから、まず私たちが勉強して何を残すべきかっていうね。そこをちゃんと勉強してから声かける。

行政は、やっぱり式典しか考えれないと思うから。そこはちょっとね、行政に要請しても難しいなと思う。

○委員（関口正博君） まあ、だから、昨日電話来てね、いろいろお話しておいて、昔からあのままだからいろいろ話するのはあれだけど、俺たちが青年部の時やってきたこととは、まず口より先に行動なんだよというお話を。おい、徳川公園のちょっと整備俺たちでやるかっていう話をしてたんだけど、俺、象徴で。まあ、以前、議長も徳川公園に関しては質問出してたけど、自分はこの開墾 150 周年の象徴として、名古屋の人たちが応援してくれるっていう、そういう交流の証しとして、この徳川公園整備っていうのは、1つ目玉になるのかなというふうに思ってるんです。

ただし、今の行政のスタンスっていうのは、庁舎問題と絡めればそこまでそういうところにお金を入れようとは思ってないけれども、この開墾 150 周年記念となれば、ちょっと話は別問題だからっていうふうにも思ってる。

だから、まずはしっかりといろんな目標を定めて物事を動かしていかなくやなんだろうけど、自分はちょっとこの徳川公園整備というのは1つの目標として入れてもいいのかな。

俺行ったことないもん、したって徳川公園のあそこさ。今入っていいかどうかもわからない。

○委員（赤井睦美君） 入りようがないよね。

○委員（寺田広樹君） 今鍵かかってますよね。

○議長（大久保健一君） 草ぼうぼうで入れねえ。

○委員（倉地清子君） あれ、一回なんかの打ち合わせで行ったな。

○委員（寺田広樹君） なんか許可あれば、開くけど。

○委員（関口正博君） ちょっと俺たちで、徳川公園清掃部隊作って。

○委員（赤井睦美君） そうだね。

○委員（小西雄一君） 一応、八雲熊彫りの会って、一般社団法人で。まあ、大久保さんもいるんですけど。その話の中でやっぱり 150 周年というのをやっぱり大事にしていかなきゃいけない。それで、やっぱりそれをきちっとやることで木彫り熊の価値も深みが増すっていう部分で、我々は一応、公園整備というか、まあ、草刈りできるのかどうかっていうか、まあ、そこら辺から、まずは今年の秋口にでもやりたいなという話はしてるんですよ。

それで、やっぱり実行委員会の話もありましたけど、なんか立ち上がらないと行政も動けないっていうのか、多分前回と同じような木彫り熊 100 周年みたいなような、多分終わり方

になってしまうのでやっぱり商工観光労政課だとか、政策推進課だとかも動かせるような、合わせたり民間としても実行委員会が少し盛り上がらないといけないなど。

まあ、そのために我々も引き続き、歴史については少し勉強会っていうか、前回も和合会だとかの人たちとも話して、次は、八雲神社の宮司さんのお話を聞きたいなということで、一応、内々では動いているので、そういうことがあれば、情報を共有させていただきたいなと思います。

○委員（倉地清子君） あっ、そういう話だったんですね。今わかりました。

○議長（大久保建一君） まずはさ、どういう会でもいいし、有志でもいいんだけど、例えば町長部局、町長、副町長を入れて、ざっくばらんにさ、150 周年についてどういう考え方を持って、どういうふうにやろうとしているのかっていうのは、一回なんか腹割って話し合ってみれば。

○委員（倉地清子君） それ大事かも。

○議長（大久保建一君） やっぱりさ、この間の開町 20 周年と木彫り熊、今のあれに関していけばさ、副委員長が言うように、やっぱり分散しちゃってたよね。社会教育は社会教育のことしか考えてないし、商工労政はイベントのことしか考えてないし。だけど、それを全体の 20 周年とか、150 周年とか、全体像を考えてまとめる親方の組織が必要なんだよね、絶対。

それで、1 年を通してこれをやっていきましょうっていうことをちゃんと指揮する組織。だから、多分開墾 150 年であれば、まず実行委員会があって、この部署はこういうことをやりましょう。この部署は、こういうことをやりましょうっていうちゃんと絵を描かないと。

○委員（関口正博君） もちろんもちろん。

○議長（大久保建一君） いいものにならねえと思うんだ。だから、それをまず町長達、やる気があるのかねえのか。

○委員（関口正博君） いや、もちろんそれもそうなんだけど、まずやらなきゃならないでしょということで。

○議長（大久保建一君） いや、だから、そういうことを意見交換できる場をまず軽く持ってみればいいでねえの。

○委員（関口正博君） だから、イベントに関しては言うけど、要は観光物産協会。ここがやっぱりイベントの中心であるべきでしょう。もしくは、八雲商工会っていうことになるでしょう。

そこで、しっかりとリーダーシップをとって、町にいろいろな要望を出していくという作業は、きっと再来年ということであればもう始めてなきゃなんない、もしかしたら段階かなというふうな気もする、予算があるからね。

○議長（大久保建一君） だけど、その前にね。寺田君言ったようにフラッグ立てて、まず、町民全体で認知してもらって気風を高めるとか、そういうこともやっぱり実行委員会。例えば関口副委員長が言うのであれば、やっぱりそれにしたたって、やっぱり官民合わせた実行委員会いないとできないと思う。

○委員（倉地清子君） 段取りが必要だもんね、本当に。

○委員（関口正博君） もちろん。話の出どころが2つも3つもあっちゃダメなんだ、やっぱり指揮系統がちゃんとあって、実行部隊があって、戦争と同じだ。ちょっと言葉悪い。考える人たちがいて動く人たちがいてっていう構図をちゃんと作っていかないと、当然バラバラになってしまう。

○委員（寺田広樹君） 分屯基地から指令連れてきますか。

○委員（倉地清子君） だめだ、ケンカになるから。

○委員（寺田広樹君） 菅原さん。

○委員（関口正博君） だから、いろんな今自衛隊の話も出たけど、自衛隊は来年50周年か。

○委員（寺田広樹君） ああ、そうか。

○委員（関口正博君） 本来であればさ、なんかね、もっと合わせて。場所も近いしみたいな、いろんな考え方ってこれ。こういう指揮系統が1箇所であれば、いろいろ発想ってしやすい。本来は。

○委員（倉地清子君） うんうん。コーディネーターみたいな感じでね。

○委員（関口正博君） イベントっていうものを集約するものが1つであれば。でも、今はもうあまりにもいろんな団体がありすぎて。それぞれのイベントに。

○議長（大久保建一君） 例えば、今年だったっけな。千歳空港開港100周年だったよね。これは議会も町職員もみんな同じポロシャツ着て、いろんなところ行って。例えば、商業施設であろうが、商店街であろうが、その開港100周年っていう文言は、どこも付けてやってるよね。だから、そういうことは協力が必要だから、やっぱり官民で力を合わせて。でも、それはやっぱり音頭を取るのは、最初は役場だと思うんだよね。

○委員（関口正博君） まず、したらさ。これが総務の所管なのか、文厚の所管なのかもわからないけど、観光ということになると、総務ってことになるだろうしな。

○議長（大久保建一君） 委員会でもねえような気もすっけどな。

○委員（関口正博君） そこはちょっと議長も動いてみる。

○議長（大久保建一君） うん。まず、町長部局と議員たちと、150周年についてちょっと話し合いたいと。

○委員（関口正博君） 今回一般質問でそういう流れがあったから1つ。ましてや、もうそんなゆっくりしてられる段階ではねえっていうふうにはちょっとと思うんだよね。改めて昨日ちょっと言われて。

○議長（大久保建一君） したら、なんかの委員会の中の日程に合わせて、したら作ったほうが良いかな。

○委員（関口正博君） 今どの程度まで町が進めているのか、町長の言葉が本当なんであれば。それちょっと早めに日程を取ってください。

○議長（大久保建一君） それ聞いてみるわ。

○委員長（横田喜世志君） はい。その他ございますか。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） なければ、第11回文教厚生常任委員会を終わりたいと思います。

[閉会 午前 11時05分]